

成人期・壮年期・老年期の 障害福祉領域における作業療法の活用

特集にあたって

2006年に国連総会で障害者権利条約が採択されてから、国内でも条約締結に先立ち障害者基本法の改正や障害者総合支援法の成立等、さまざまな法制度整備が行われた。とりわけ「全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現する」を基本理念としている障害者総合支援法の成立は、OTにとっても多様性を認め合う社会の中で、あらためて福祉領域におけるOTの役割や作業療法の活かし方を考える機会になっている。

今回の特集では、疾患や障害種別を表題にするのではなく、その人の特性やその人らしさ、ライフイベントや人生のステージ、人生の節目等に注目し、年代や社会的背景の違いによってそれぞれに異なる当事者のエピソードに向き合っているOTの姿を切り出すことにした。幅広い福祉領域の中でも成人期以降の障害福祉を切り口に、well-beingを基軸とした作業療法の活用、取り組み、課題を紹介いただく。

読者の皆様には、障害者差別解消法の考え方とされる「全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現するためには、日常生活や社会生活における障害者の活動を制限し、社会への参加を制約している社会的障壁を取り除くこと」に貢献している作業療法の実践や、執筆者らが日々地域社会で当事者や家族と体現している時間や空間を感じていただければ幸いである。また、報告から見える福祉的課題や、次世代につながる制度のあるべき姿などを思い描いていただければ何よりである。

(渡邊 忠義)

企画担当

渡邊 忠義 (あさかホスピタル, 作業療法士)

中村 春基 (日本作業療法士協会, 会長・作業療法士)

長野 敏宏 (御荘診療所, 医師)